2021/06/21（月）

朝の礼拝
聖書　イザヤ書 2章4,5節（旧約聖書1026頁）

主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。
彼らは剣を打ち直して鋤とし
槍を打ち直して鎌とする。
国は国に向かって剣を上げず
もはや戦うことを学ばない。
ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう。

イザヤの壁

今日、6月21日は、北半球では「夏至」です。この一年で最も昼の時間が長い一日となります。静岡の日の出は4時33分、日の入りは19時4分になります。冬至の日の出が6時51分、日の入りは16時40分ですからその差は4時間42分です。同じ一日24時間なのに夏至と冬至では得したような損をしたような不思議な感覚です。

こうした気候のことを英語で*“Climate”*と言います。古代ギリシア語では「傾き」を意味します。太陽の傾きです。日本語では「風土」とも訳されます。風土は自然、生活、歴史、文化も含みます。たとえば「文化」は英語で*“culture”*です。ラテン語*“colere”*「耕す」に由来します。私たちは風土に育まれ、生かされているのです。

先ほど読んで頂いた聖書で「彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」という言葉がありました。分かれ争う者が互いに武器を農具に打ち直して、もう戦うことを学ばない。土を耕し、平和の時を迎えるという内容です。国境という国の境を作り、時代という時の境を作り、武器を作って争うのは文明という人間の愚かな営みで

す。自然は絶え間なく流れる悠久の時です。文明は本来、その風土、文化に根ざすべきであり、このグローバルな世界ではなおさらその多様性を尊重するべきではないでしょうか。

昨日、20日は国連が提唱する「世界難民の日」でした。シリア内戦による難民はトルコ、ヨーロッパ諸国へ、ミャンマーのイスラム教少数民族ロヒンギャは隣国バングラデシュへ逃れています。難民が生まれ育った故郷へ帰るのは、神様に造られ、自然と共に生かされる人間性を回復することです。

ニューヨークにある国連の前庭には各国からの平和を願うモニュメントがあります。その一つに「イザヤの壁」（*“Isaiah Wall”*）があります。そこに刻まれているのが、今日、皆さんと共に聴いた預言者イザヤの言葉でした。もう一度お読みしましょう。

（しばらく黙祷しましょう）

英和女学院、英和生を愛し、励まされる主よ。
あなたは人間が自然と共に生きるように、大地を耕し、仕えるようにされました。どうか互いに分かれ争うことなく、与えられた環境で感謝と喜びをもって生きることができるようにお導き下さい。また期末テスト前の週となりました。どうか英和生が体調を整え、良き準備をもって臨むことができますように祈ります。今日一日もすべてをあなたに委ね、安全で健康な学校生活を守り、よき学びの時をお与えください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン